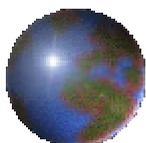




平成14年5月22日



2002年3月期 決算説明会

日本精工株式会社

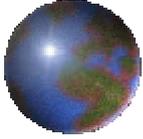
本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しております。
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの一定の前提に基づいて作成しております。
従って、実際の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

NSK
MOTION & CONTROL

目次

	ページ
・ 連結決算	2 ~ 18
・ 2003年3月期 予想	19 ~ 27
添付資料 単独決算	28 ~ 35

本日は、ご覧の通りの内容、順番でご説明申し上げます。



. 連結決算

2002年3月期 業績 連結ベース



(億円)	'00/3月期 (1999年4月～2000年3月)	'01/3月期 (2000年4月～2001年3月)	'02/3月期 (2001年4月～2002年3月)	増減 (対'01/3月期)
売上高	4,865	5,331	4,809	-522
営業利益	147	258	39	-219
(持分法投資利益)	(33)	(32)	(26)	
経常利益	85	191	-32	-223
税引前利益	86	233	-103	-336
当期利益	28	114	-177	-291
(換算レート1US\$=)	(114.04円)	(107.90円)	(121.50円)	
(" 1STG£=)	(184.25円)	(164.03円)	(175.27円)	
(" 1EURO=)	(121.61円)	(99.45円)	(108.63円)	

3

それでは今期の損益の概要から、ご説明いたします。

まず、連結ベースの売上高については、前期から-10%減の4,809億円となりました。

利益面につきましては、

営業利益が39億円と、対前期で-85%の減益となりました。

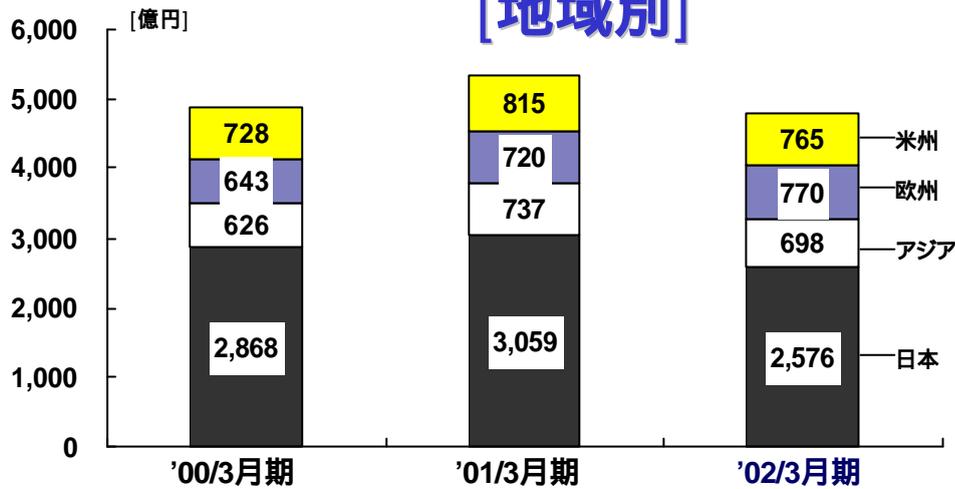
経常利益は、上期が20億円の黒字でしたが、下期は-52億円の赤字となり、通期で-32億円となりました。これは、94年3月期以来、8期振りの赤字です。

また、当期利益は、あとでご説明いたしますが、主に銀行株の下落による保有株式の評価損の計上により-177億円と、巨額の損失となりました。

為替レートについては、ご覧の通り、ドル、ユーロ、ポンドのいずれも円安方向に推移しました。

売上高 連結ベース

* [地域別]



(億円)	構成比	構成比	構成比	増減率 (%)	現地通貨ベース増減率 (%)
米州	728 15.0%	815 15.3%	765 15.9%	-6.1%	-13.4%
欧州	643 13.2%	720 13.5%	770 16.0%	+6.9%	0.0%
アジア	626 12.9%	737 13.8%	698 14.5%	-5.3%	-10.6%
日本	2,868 58.9%	3,059 57.4%	2,576 53.6%	-15.8%	-
合計	4,865 100.0%	5,331 100.0%	4,809 100%	-9.8%	-12.6%

4 * 上記における「地域別売上高」の内訳は、顧客の所在地域別に表示されています。

地域別に売上を見てみますと

国内は、自動車など一部に堅調な業種もありますが、自動車以外については、IT関連の情報・通信、及び鉄鋼、工作機械など総じて低迷が続き、前年比で -16%と大幅に減少し、2,576億円となりました。

海外については、

米州は、米国の自動車生産が前年比10%減となる中で、自動車向けの軸受とステアリングコラム等が、新規案件の増加もあり比較的堅調でしたが、OEM向けの軸受が減少したことと、半導体製造装置向けの精機製品が大幅に減少したため、売上高は現地通貨ベースで前年比 -13%の減、邦貨換算後で -6%減の765億円となりました。

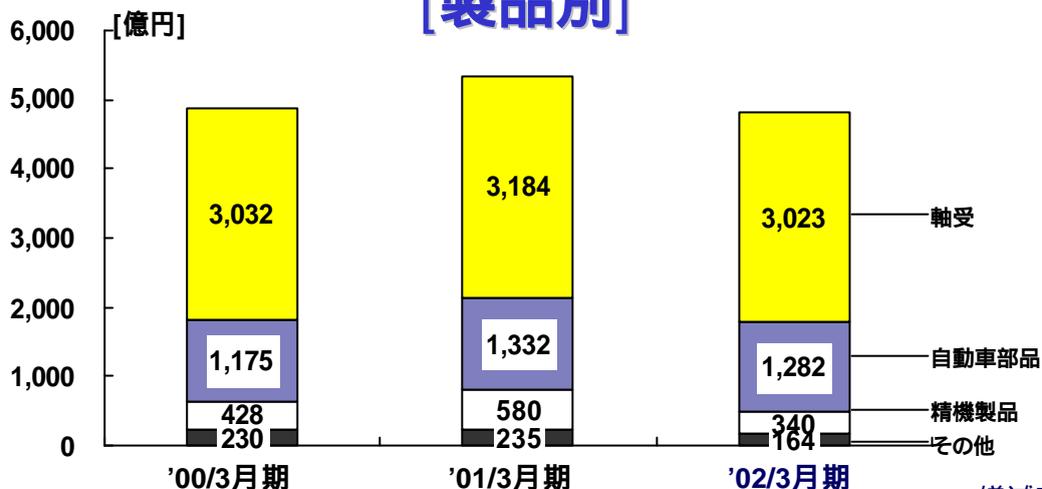
欧州は、景気悪化による影響を受け、一般産業向けの軸受や精機製品が減少しましたが、自動車向けの軸受や電動パワーステアリング及びコラムが増加したことにより、現地通貨ベースで前年比横ばいをキープし、邦貨換算後では +7%増加の770億円となりました。

アジアは、中国は好調でしたが、アセアンでの電機・情報向け需要の落ち込みや韓国での輸出不振と設備投資の落ち込みにより、現地通貨ベースで前年比 -11%の減となりましたが、邦貨換算後では -5%減の698億円となりました。

この結果、海外全体での売上高は前期より -1.7%減の2,233億円となりました。なお、円安による換算差影響額 +148億円を除く現地通貨ベースでは前年比 -8%減となっております。なお、海外売上比率は国内売上高の減少や為替レート差による海外売上げの嵩上げもあり、前期に比し +3.8ポイント上昇し 46.4%となっております。

売上高 連結ベース

[製品別]



(億円)		構成比		構成比		構成比	増減率 (%)
軸受	3,032	62.3%	3,184	59.7%	3,023	62.8%	-5.1%
自動車部品	1,175	24.2%	1,332	25.0%	1,282	26.7%	-3.8%
精機製品	428	8.8%	580	10.9%	340	7.1%	-41.4%
その他	230	4.7%	235	4.4%	164	3.4%	-30.2%
合計	4,865	100.0%	5,331	100.0%	4,809	100.0%	-9.8%

5

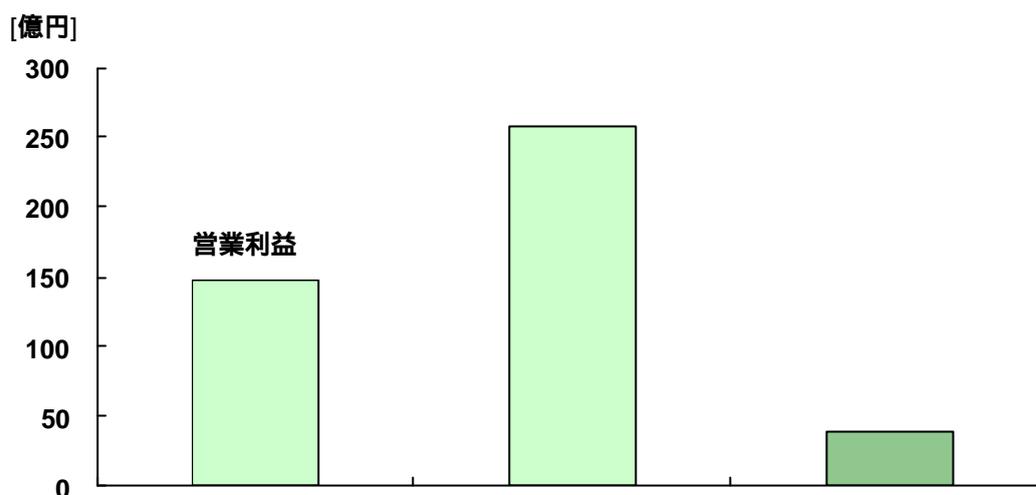
製品別に売上高を見ますと

軸受は国内では自動車向けは堅調でしたが、電機・情報、工作機械、産業機械向けなど一般産業向けや輸出需要が落ち込みました。海外でも自動車向けは堅調でしたが、一般産業向けが不振で、全体では3,023億円と前期より-5%の減収となりました。

自動車部品は電動パワーステアリングが国内、欧州で売上を伸ばしましたが、シートベルトや一般のステアリングが減少し、1,282億円と前期より-4%の減収となりました。

精機製品は、前期好調だった半導体関連製造装置向け及び工作機械向けとも需要が急激に落ち込み、前年比で4割減と大幅に減少し、340億円となりました。

営業利益 連結ベース



(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減
売上高	4,865	5,331	4,809	-522
売上総利益	928 (19.1%)	1,048 (19.7%)	872 (18.1%)	-176
販売費及び一般管理費	781 (16.1%)	790 (14.9%)	833 (17.3%)	+43
営業利益	147 (3.0%)	258 (4.8%)	39 (0.8%)	-219

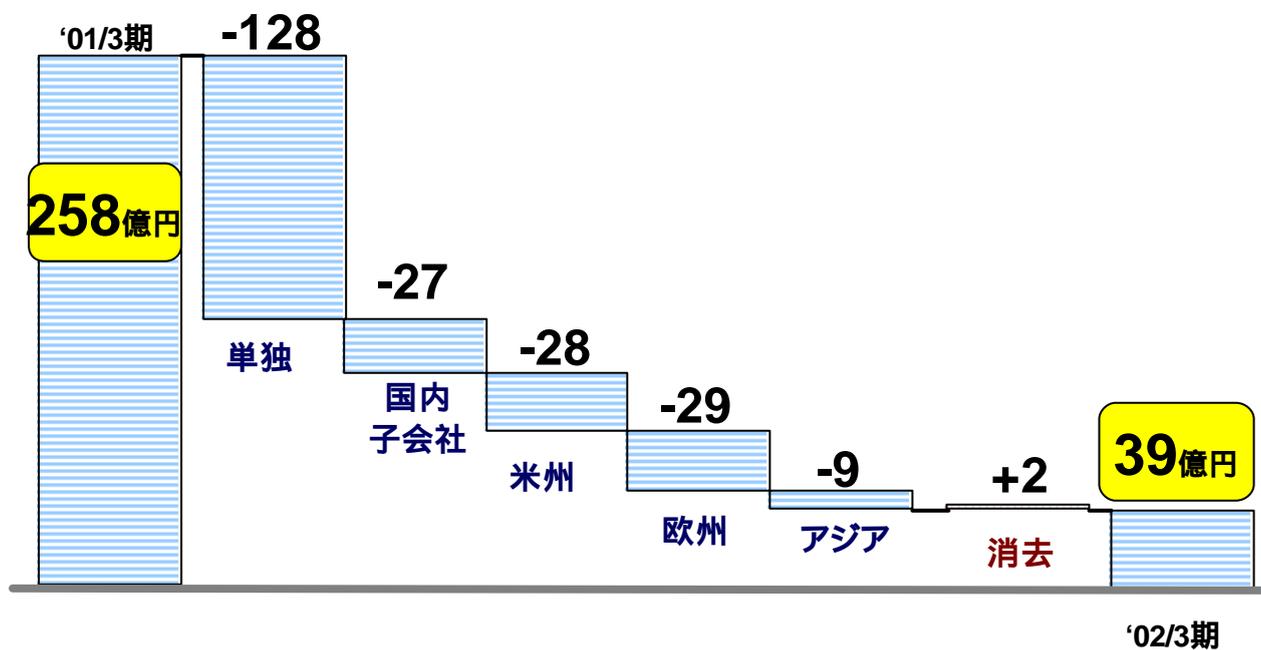
6

このような物量の大幅な落ち込みから、売上総利益率は前期の19.7%から1.6ポイント悪化し、18.1%となりました。

また販管費は、為替換算による影響と欧州分の増加により43億円増加したため、売上高販管費率も前期の14.9%から2.4ポイント悪化し、17.3%となりました。

以上の結果、営業利益は対前期比 - 85%減益の39億円となりました。

営業利益 差額説明 ('02.3月期/'01.3月期)



前期と今期との差額219億円の内訳は、ご覧の通りです。

軸受や精機製品の急激な物量減による固定費負担の増加を、設備投資圧縮や社外工の削減等の工場コストダウンと円安による輸出採算の好転でカバーしきれず、親会社及び国内子会社の営業利益が大きく落ち込んだ他、米州、欧州、アジアの各地域とも減益となりました。

法人所在地別業績



(億円)		'00/3月期 (1999年4月～2000年3月)	'01/3月期 (2000年4月～2001年3月)	'02/3月期 (2001年4月～2002年3月)
日本	売上高	3,969	4,381	3,667
	営業利益 <%>	109 <2.7>	185 <4.2>	31 <0.8>
米州	売上高	684	770	733
	営業利益 <%>	42 <6.1>	47 <6.1>	19 <2.6>
欧州	売上高	662	737	798
	営業利益 <%>	-29 <-4.4>	-34 <-4.6>	-63 <-7.9>
アジア	売上高	448	534	538
	営業利益 <%>	35 <7.8>	44 <8.2>	35 <6.5>
消去	売上高	-899	-1,091	-927
	営業利益	-10	16	17
合計	売上高	4,865	5,331	4,809
	営業利益 <%>	147 <3.0>	258 <4.8>	39 <0.8>

* 上記における売上高及び営業利益の内訳は、売上元別(出荷事業所別)に表示されています。したがって、前出の「地域別売上高」における売上高の内訳とは異なります。

所在地別の営業利益を見ますと

国内の営業利益は前期の185億円から-154億円減少し、31億円となりました。減少の内訳は、親会社が-128億円、国内子会社が-27億円です。

米州の営業利益は19億円と前期の47億円から6割の減少となりました。ブラジルNSK社は増益でしたが、米国のNSKコーポと精機製品の分社会社であるNSKプレジジョン・アメリカ社の利益が-30億円減少しました。これは、NSKコーポの軸受事業について、ビッグ3向けの低迷による米国アナーバー工場が減産したこと、電機・電動工具向けの低迷と中国品の侵食による米国クリンダ工場が操業度ダウンしたこと、そしてNSKプレジジョン・アメリカ社の売上げが半減したことによる営業赤字への転落などが響きました。

欧州の営業利益は-63億円と、営業赤字幅が拡大しました。これは、値上げの浸透やリストラ効果によるRHP品の粗利改善などの増益要因はあったものの、ピタリ工場の操業度低下、イスクラ品の輸出低迷やズロチ高の影響、NSKステアリングシステムズ・ヨーロッパ社のコストアップや販管費の増加などによるものです。

アジアでは中国は増益となりましたが、マカオレーシア、韓国NSKでの物量減とジャカルタ工場での設備増設による固定費負担の増加により、全体の営業利益は35億円と、減益となりました。

製品別営業利益



金額 (億円)	売上高	営業損益	営業損益率 (%)	総資産 (ROA:%)
軸受	3,023	113	3.7	3,499 (3.2%)
自動車部品	1,282	4	0.3	1,038 (0.4%)
精機製品	340	-53	-15.7	588 (— %)
その他 (*)	269	18	6.7	227 (7.9%)
消去 (全社費用含む)	-105	-43	—	1,076
合計	4,809	39	0.8	6,428 (0.6%)

* 「その他」の売上高は、製品間内部売上高を含んでおります。

9

今期中間時よりセグメント情報として、新たに製品別損益を開示しておりますが、通期では、ご覧の通りの結果となりました。

軸受の営業利益は113億円、利益率は3.7%と、厳しい環境下にあっても黒字を維持しました。

自動車部品の営業利益は、4億円と大変低い利益にあり、今後、分社化も含めて収益管理と責任の徹底を図って参ります。

精機製品の営業利益は、急激な量の落ち込みにより、-53億円の赤字となりました。

営業外損益 連結ベース



[億円] 00/3月期 01/3月期 02/3月期 対前期差額

営業利益	147	258	39	-219
営業外利益	90	97	76	-21
受取利息及び配当金	29	26	21	-5
持分法投資利益	33	32	26	-6
雑益	28	39	29	-10
営業外費用	152	164	147	-17
支払利息	103	94	78	-16
雑損	49	70	69	-1
経常利益	85	191	-32	-223

10

次に営業外損益につきましては、

受取利息及び配当金は前期より-5億円減少しました。一方、支払利息は前期から、-16億円減少しました。その結果、受取利息及び配当金から支払利息を差し引いた金融収支は11億円改善しました。これは、親会社が前期に高金利社債を償還し、低利調達に借り換えた影響で、支払利息が対前期で-14億円減少したことによります。

持分法投資利益は、前期から-6億円減少し26億円となりました。当期は、天辻鋼球や井上軸受が減益となった為、持分法利益が減少しました。

雑益が、対前期で-10億円減少しましたが、これは前期に藤沢厚生施設の売却益等を計上していた為です。

特別損益 連結ベース



[億円]	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	対前年同期 差額
営業利益	147	258	39	-219
経常利益	85	191	-32	-223
特別利益	213	247	96	-151
固定資産売却益	64	0	93	+93
投資有価証券売却益	140	36	3	-33
関係会社株式売却益	0	9	0	-9
退職給付信託設定益	0	202	0	-202
その他	9	—	—	—
特別損失	212	205	167	-38
希望退職関連費用	105	—	0	—
投資有価証券評価損	20	0	129	+129
事業構造改善費用	87	26	38	+12
退職給付変更時差異	—	179	0	-179
税引前利益	86	233	-103	-336

11

特別利益につきましては、

固定資産売却益として、多摩川工場跡地の売却益を計上しました。

また、投資有価証券売却益には、NSK本体の持合解消に伴う上場株式売却益を計上しております。

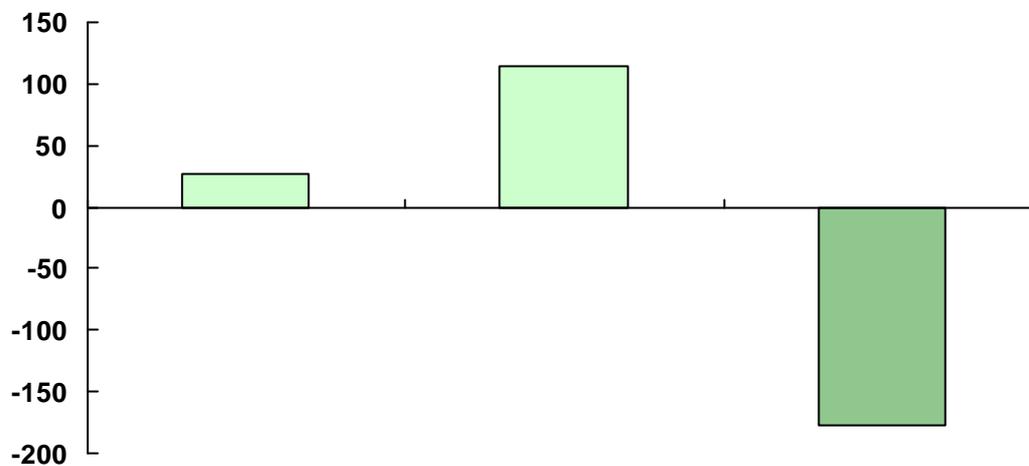
特別損失につきましては、

投資有価証券評価損として、株価下落に伴う金融機関を中心とした上場株式の評価損を計上しました。

また、事業構造改善費用には、日本のNSKオートリブ社への転籍者割増退職金と、欧州のリストラ費用、及びデルファイ・ツァシー-NSKブラジル社の清算損を計上しております。

当期利益 連結ベース

[億円]



	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期
当期利益 (億円)	28	114	-177
当期利益率 (%)	0.6	2.1	-3.7
ROE (%)	1.3	5.2	—

12

以上の結果、当期利益につきましては、税金費用等を差し引いて、前期の+114億円から-177億円と、大幅な悪化となりました。

貸借対照表 連結ベース

(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減
流動資産	3,925	3,216	2,915	-301
現金及び預金	243	187	245	+58
売掛債権	1,298	1,480	1,126	-354
有価証券	1,082	231	307	+76
棚卸資産	1,015	1,023	975	-48
その他の流動資産	287	295	262	-33
固定資産	2,476	3,589	3,513	-76
有形、無形固定資産	1,874	2,039	2,201	+162
投資有価証券	415	1,462	1,228	-234
繰延税金資産	106	10	16	+6
その他	81	78	68	-10
* <設備投資>	<261>	<385>	<368>	<-17>
為替換算調整勘定	287	—	—	—
資産合計	6,688	6,805	6,428	-377
(換算レ-IUS\$=)	(¥102.40)	(¥114.75)	(¥131.95)	
(" 1STG £=)	(¥165.69)	(¥171.10)	(¥191.53)	
(" 1EURO=)	(¥102.91)	(¥106.55)	(¥116.51)	

続きまして、貸借対照表についてご説明いたします。

まず資産の部です。流動資産のうち

・受取手形及び売掛金が354億円減少したのは、主に国内の売上が減少したことによるものです。

・有価証券が76億円増加したのは、来期に予定される社債償還等の資金需要に備え、NSK本体で流動性の高い運用を増やしたことによるものです。

・棚卸資産及び固定資産については、後ほどご説明します。

・投資有価証券が234億円減少したのは、主に、株式市場低迷により、その他保有目的の有価証券の時価が減少したためです。

棚卸資産

(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減	為替換算 影響分	現地通貨 ベース増減
日本	568	523	454	-69		-69
<単独>	381	313	268	-45		
海外	447	500	521	+21	+56	-35
米州	163	184	193	+9	+23	-14
欧州	195	196	215	+19	+19	—
アジア	89	120	113	-7	+14	-21
合計	1,015	1,023	975	-48	+56	-104

棚卸資産は国内外で在庫圧縮に努めた結果、現地通貨ベースでは、国内 - 69億円、海外 - 35億円の在庫を削減しました。 但し、為替換算の影響により円換算後では、- 48億円の減に留まりました

設備投資

(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	'03/3月期 計画
設備投資 計	261	385	362	280
日本	156	247	185	120
<単独>	<116>	<225>	<134>	<99>
海外	105	138	177	160
米州	25	34	66	61
欧州	44	52	55	44
アジア	36	52	56	55
償却費 計	255	257	282	291
日本	161	163	168	164
<単独>	<136>	<134>	<122>	<113>
海外	94	94	114	127

15

設備投資につきましては、外部環境の悪化を考慮し、新規投資の圧縮に努めましたが、戦略上の観点より必須のものに絞って実行致しました。

日本では、R&Dセンターの新設やNSK九州の精機新工場の立ち上げに、海外では米国の新本社 R&Dセンターの建設とハブの増強、欧州での生産拠点の移管に伴う投資、アジアでは中国、アセアンでの能力増強を図るため、償却費の282億円を上回る、362億円を実行しました。

2003年3月期については、引き続き日本での投資を更に絞りこみますが、海外では、高水準の投資が続きます。

貸借対照表 連結ベース



(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減
流動負債	2,827	2,620	2,394	-226
買掛債務	994	1,050	863	-187
短期借入、社債	1,385	1,055	1,185	+130
その他の流動負債	448	515	346	-169
固定負債	1,610	1,797	1,824	+27
社債、長期借入等	1,229	1,403	1,539	+136
繰延税金負債	15	139	69	-70
退職給付引当金関係	273	165	147	-18
その他の固定負債	93	90	69	-21
負債合計	4,437	4,417	4,218	-199
* <有利子負債>	<2,614>	<2,458>	<2,724>	<+266>
少数株主持分	91	114	128	+14
資本、準備金、剰余金	2,160	2,240	1,990	-250
その他有価証券評価差額金		271	243	-28
為替換算調整勘定		-233	-147	+86
その他の資本		-4	-4	0
資本合計	2,160	2,274	2,082	-192
負債及び資本	6,688	6,805	6,428	-377

16

次に、負債と資本の部についてご説明します。

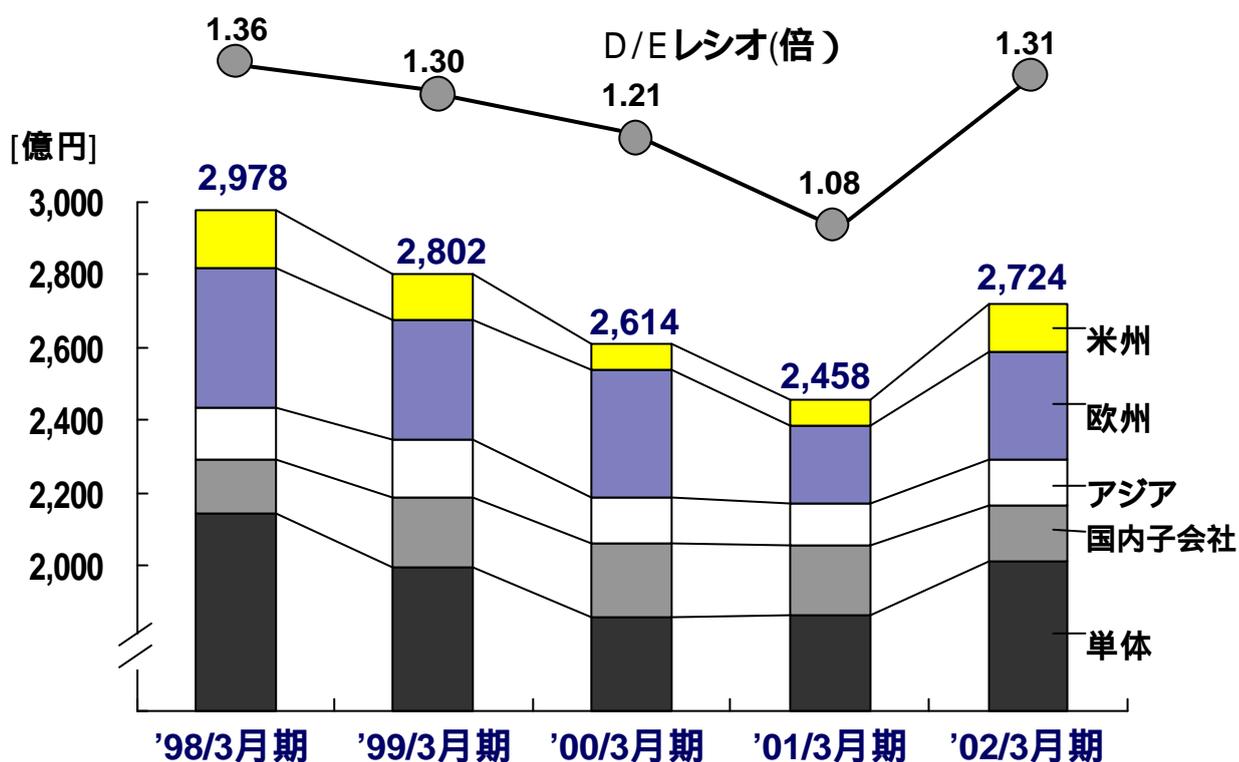
有利子負債は、後ほど、ご説明致します。

繰延税金負債が70億円減少していますが、投資有価証券の評価差額に係る税効果が、有価証券の時価の下落で減少した為です。

資本の部の「資本金・資本準備金」の減少は、親会社が自己株式を買入消却した為です。

その他剰余金の減少は、当期利益の赤字 - 177億円と親会社の配当金支払による減によるものです。

有利子負債



有利子負債につきましては、前期の2,458億円から+266億円増加し、当期末残高は2,724億円となりました。

国内の有利子負債は113億円増加しました。NSK本体では148億円の増加となりましたが、これは来期の社債償還などに備えて借入れを増やし、手元資金を厚くしたためです。また、国内子会社の銀行借入れは-35億円減少しました。

海外の現地通貨ベースでの銀行借入れは、+103億円の増加ですが、為替レートの影響分+50億円によって、円換算後では+153億円の増加となりました。

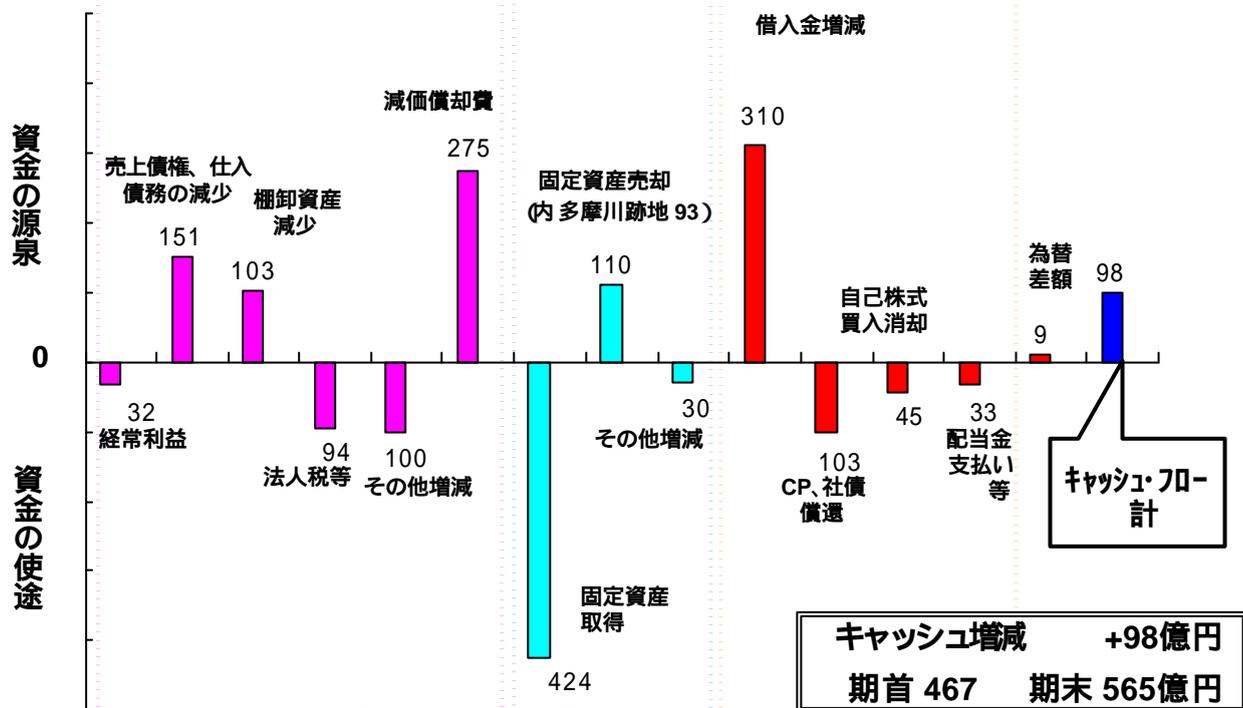
キャッシュフロー 連結ベース



(億円単位)

(為替換算レート変動の影響を除いた実質ベース)

(1) 営業キャッシュ・フロー +303 (2) 投資キャッシュ・フロー 343 (3) 財務キャッシュ・フロー +129



18

当期のキャッシュ・フローにつきましては、経常利益が -32億円となりましたが、減価償却費275億円、売上債権や仕入債務の増減151億円、棚卸資産の減少103億円減などがキャッシュの収入となり、法人税支払による支出94億円などを控除後の営業キャッシュ・フローは +303億円の収入となりました。

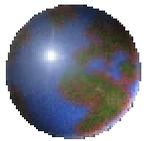
投資キャッシュ・フローは多摩川跡地売却等による固定資産売却による収入110億円がありましたが、設備投資資金の支払が424億円あり、343億円の支出になりました。

営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは40億円の支出超となりました。

有利子負債の項目で説明した通り、当期は国内外で有利子負債を増やした為、財務キャッシュ・フローは+129億円の収入となりました。

以上の結果、キャッシュ・フロー合計は98億円の収入超となりました。

これで、2002年3月期決算についてのご説明を終わらせていただきます。



. 2003年3月期 計画

では、引き続き、今期2003年3月期の予想につきまして、説明させていただきます。

2003年3月期 計画 連結ベース

[億円]	'02/3月期			'03/3月期			増減
	(2001年4月～2002年3月)			(2002年4月～2003年3月)			
	<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期	
売上高	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100	+291
営業利益	49	-10	39	55	115	170	+131
経常利益	20	-52	-32	30	80	110	+142
税引前利益	98	-201	-103	30	80	110	+213
当期利益	37	-214	-177	5	35	40	+217
(換算レート1US\$=)	(¥119.97)	(¥123.02)	(¥121.50)	(¥125.00)	(¥125.00)	(¥125.00)	
(" 1STG£ =)	(¥172.92)	(¥177.63)	(¥175.27)	(¥185.00)	(¥185.00)	(¥185.00)	
(" 1EURO=)	(¥107.33)	(¥109.93)	(¥108.63)	(¥112.00)	(¥112.00)	(¥112.00)	

20

まず、売上高は、最近の需要回復を折込み、通期で約6%増の5,100億円を計画しています。

なお、この中には、シートベルト事業のNSKオートブ社の売上197億円を含んでいます。2月の会社説明会では、今期よりNSKオートブ社の合併相手のオートブ社持分が40%から70%に増えて、マジョリティーが移る前提で数字を作成しましたが、今般オートブ社の申し出により、このステップを飛ばして、来年4月に一挙に残り60%を買い取ることになった為です。

利益面では、国内の第二次事業構造改革の効果と海外は欧州のリストラ効果を折込みました。これについては、後ほどご説明致します。営業利益170億円、経常利益110億円、当期利益40億円を計画しています。

売上高計画

[地域別]

[億円]	'02/3月期			'03/3月期			増減率 (%)
	(2001年4月～2002年3月)			(2002年4月～2003年3月)			
	<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期	
売上合計	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100	+6.1%
日本	1,318	1,229	2,576	1,321	1,423	2,744	+6.5%
海外	1,206	1,056	2,233	1,179	1,177	2,356	+5.5%
米州	403	362	765	410	417	827	+8.1%
欧州	430	340	770	405	381	786	+2.1%
アジア	373	354	698	364	379	743	+6.4%

*上記における「地域別売上高」の内訳は、顧客の所在地域別に表示されています。

売上高を地域別に見ますと

欧州は、景気回復が遅れているため、一般産業用軸受や精機製品の売上の回復が遅れ、現地通貨ベースでは若干減少となります。その他の地域では、日本を始めとして米州、アジアでも緩やかな回復を見込んでいます。

売上高計画



[製品別]

[億円]	‘02/3月期			‘03/3月期			増減率 (%)
	(2001年4月～2002年3月)			(2002年4月～2003年3月)			
	<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期	
売上合計	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100	+6.1%
軸受	1,555	1,468	3,023	1,543	1,627	3,170	+4.9%
自動車部品	654	628	1,282	689	671	1,360	+6.1%
精機製品	209	131	340	182	208	390	+14.7%
その他	106	58	164	86	94	180	+9.8%

22

製品別に見ますと、ご覧の通り、各製品とも、回復を見込んでおります。

軸受は、自動車用軸受が伸びるほか、標準玉軸受や精密軸受等の回復を見込んでいます。

自動車部品は、電動パワーステアリングやステアリングコラム、及びシートベルトなど、全般的な伸びを見込んでいます。

精機製品は、IT産業向けを中心に、メカトロ製品の他、ボールねじ、リニアガイドなどの回復を見込んでいます。

法人所在地別業績 予想



(億円)

‘02/3月期 (2001年4月～2002年3月) ‘03/3月期 (2002年4月～2003年3月)

		<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期
日本	売上高	1,908	1,759	3,667	1,910	2,060	3,970
	営業利益	25	6	31	45	93	138
	<%>	<1.3>	<0.3>	<0.8>	<2.4>	<4.5>	<3.5>
米州	売上高	386	347	733	390	380	770
	営業利益	17	2	19	11	13	24
	<%>	<4.4>	<0.6>	<2.6>	<2.8>	<3.4>	<3.1>
欧州	売上高	440	358	798	410	375	785
	営業利益	-18	-45	-63	-10	-10	-20
	<%>	<-4.1>	<-12.6>	<-7.9>	<-2.4>	<-2.7>	<-2.5>
アジア	売上高	282	256	538	275	275	550
	営業利益	23	12	35	17	23	40
	<%>	<8.2>	<4.7>	<6.5>	<6.2>	<8.4>	<7.3>
消去	売上高	-492	-435	-927	-485	-490	-975
	営業利益	2	8	17	-8	-4	-12
合計	売上高	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100
	営業利益	49	-10	39	55	115	170
	<%>	<2.0>	<0.4>	<0.8>	<2.2>	<4.4>	<3.3>

* 上記における売上高及び営業利益の内訳は、売上元別 (出荷事業所別) に表示されています。
したがって、前出の「地域別売上高」における売上高の内訳とは異なります。

23

地域別の営業利益は、ご覧の通りです。

日本は、自動車産業向の軸受や自動車部品の販売が、引き続き好調なことや半導体製造装置及び射出成型機向けなどの精機製品の受注が戻り始めてきたことなど、少しずつではありますが、足元の景気が回復傾向にあり 販売の拡大を計画しています。利益については、次の画面をご覧ください。

日本の増益要因

(億円)

親会社

+92 (28 120)

増益要因	物量増	30
	構造改革	90
減益要因	その他	28

国内子会社

+16 (3 19)

NSK販売	+13
NSK九州	+3

合計 +108 (31 139)

日本の営業利益は前期より108億円の増益を計画していますが、その内訳はご覧の通りです。

親会社の増益要因のうち、物量の増加による増益分として、30億円を計上しました。売上高は約300億円の増収を計画していますが、生産量が増加することによる労務費の増加の他に、引き続き棚卸資産削減に取り組んでいく為、生産の増加を押さえていくことなどを考慮しています。また、構造改革分として、90億円を算入しました。

減益要因には、年金の増加や決算調整など、28億円を計上しています。

子会社については、NSK販売とNSK九州の物量増による増益等です。

法人所在地別業績 予想



(億円)

‘02/3月期 (2001年4月～2002年3月) ‘03/3月期 (2002年4月～2003年3月)

		<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期
日本	売上高	1,908	1,759	3,667	1,910	2,060	3,970
	営業利益	25	6	31	45	93	138
	<%>	<1.3>	<0.3>	<0.8>	<2.4>	<4.5>	<3.5>
米州	売上高	386	347	733	390	380	770
	営業利益	17	2	19	11	13	24
	<%>	<4.4>	<0.6>	<2.6>	<2.8>	<3.4>	<3.1>
欧州	売上高	440	358	798	410	375	785
	営業利益	-18	-45	-63	-10	-10	-20
	<%>	<-4.1>	<-12.6>	<-7.9>	<-2.4>	<-2.7>	<-2.5>
アジア	売上高	282	256	538	275	275	550
	営業利益	23	12	35	17	23	40
	<%>	<8.2>	<4.7>	<6.5>	<6.2>	<8.4>	<7.3>
消去	売上高	-492	-435	-927	-485	-490	-975
	営業利益	2	8	17	-8	-4	-12
合計	売上高	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100
	営業利益	49	-10	39	55	115	170
	<%>	<2.0>	<0.4>	<0.8>	<2.2>	<4.4>	<3.3>

* 上記における売上高及び営業利益の内訳は、売上元別(出荷事業所別)に表示されています。したがって、前出の「地域別売上高」における売上高の内訳とは異なります。

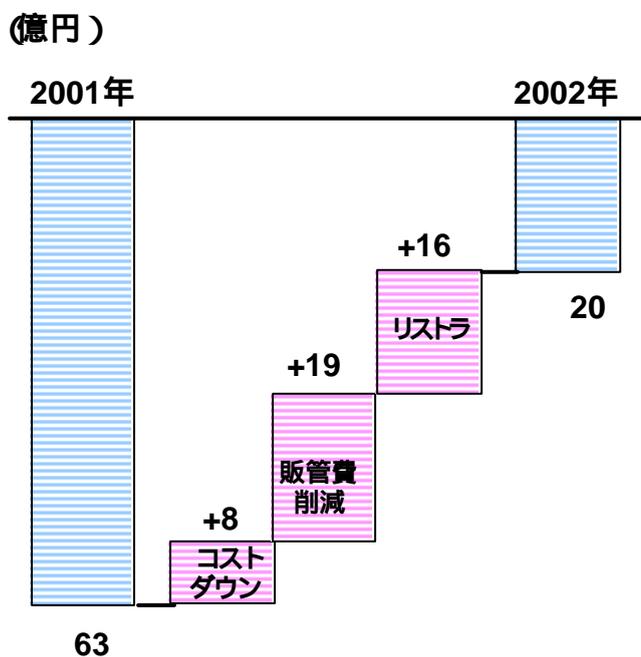
23

米州は、一般産業向けの軸受や精機製品は、景気回復が遅れている影響を受け、横ばい、ないしは若干の減少を予想していますが、自動車向けの軸受や自動車部品が拡大し、増益になります。

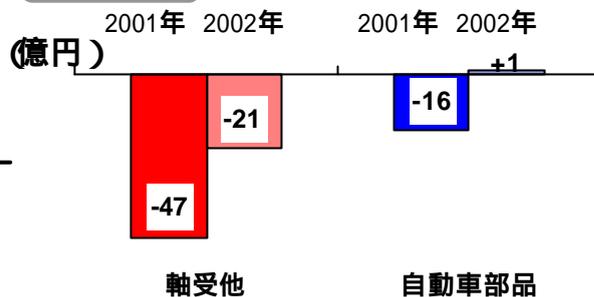
欧州についても、販売面では同じ傾向を予想しておりますが、構造改革の成果の寄与と、EPSの現地生産の増加により、営業利益段階では赤字幅が縮小するものと考えております。次の画面をご覧ください。

欧州の増益要因

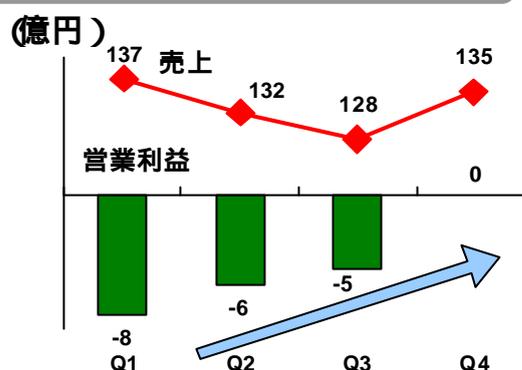
要因別



製品別



四半期別計画 (自動車部品除く)



欧州の営業利益については、2月の会社説明会でご説明しました中期計画の数字と同じ20億円を計画しています。前期の-63億円からの利益改善の内訳については、左の図をご覧ください。リストラ効果16億円の他に、販管費の削減と調達費の削減等のコストダウンを織り込みました。

製品別では、自動車部品がEPSの現地生産拡大やコラムの収益改善により黒字化するほか、軸受及び精機全体で、ご覧の右下のグラフの通り 第4四半期での黒字化を目指しております。

法人所在地別業績 予想



(億円)

‘02/3月期 (2001年4月～2002年3月) ‘03/3月期 (2002年4月～2003年3月)

		<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期
日本	売上高	1,908	1,759	3,667	1,910	2,060	3,970
	営業利益	25	6	31	45	93	138
	<%>	<1.3>	<0.3>	<0.8>	<2.4>	<4.5>	<3.5>
米州	売上高	386	347	733	390	380	770
	営業利益	17	2	19	11	13	24
	<%>	<4.4>	<0.6>	<2.6>	<2.8>	<3.4>	<3.1>
欧州	売上高	440	358	798	410	375	785
	営業利益	-18	-45	-63	-10	-10	-20
	<%>	<-4.1>	<-12.6>	<-7.9>	<-2.4>	<-2.7>	<-2.5>
アジア	売上高	282	256	538	275	275	550
	営業利益	23	12	35	17	23	40
	<%>	<8.2>	<4.7>	<6.5>	<6.2>	<8.4>	<7.3>
消去	売上高	-492	-435	-927	-485	-490	-975
	営業利益	2	8	17	-8	-4	-12
合計	売上高	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100
	営業利益	49	-10	39	55	115	170
	<%>	<2.0>	<0.4>	<0.8>	<2.2>	<4.4>	<3.3>

* 上記における売上高及び営業利益の内訳は、売上元別(出荷事業所別)に表示されています。したがって、前出の「地域別売上高」における売上高の内訳とは異なります。

アジアは、HDD向け軸受けへのFDBの普及の影響もありますが、中国の家電向けの軸受需要が引き続き強いことと、半導体製造装置向けなどの精機製品の販売が回復してくることもあって、若干の増益を計画しています。

2003年3月期 計画 連結ベース

[億円]	'02/3月期			'03/3月期			増減
	(2001年4月～2002年3月)			(2002年4月～2003年3月)			
	<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期	
売上高	2,524	2,285	4,809	2,500	2,600	5,100	+291
営業利益	49	-10	39	55	115	170	+131
経常利益	20	-52	-32	30	80	110	+142
税引前利益	98	-201	-103	30	80	110	+213
当期利益	37	-214	-177	5	35	40	+217
(換算レート1US\$=)	(¥119.97)	(¥123.02)	(¥121.50)	(¥125.00)	(¥125.00)	(¥125.00)	
(" 1STG £ =)	(¥172.92)	(¥177.63)	(¥175.27)	(¥185.00)	(¥185.00)	(¥185.00)	
(" 1EURO=)	(¥107.33)	(¥109.93)	(¥108.63)	(¥112.00)	(¥112.00)	(¥112.00)	

以上、ご覧頂きました通り、今期の業績につきましては、当社のコア製品である、自動車産業向けの軸受や標準玉軸受が伸びる他、精機製品などが回復しはじめてきたことなど、物量の増加もありますが、何と云っても構造改革の効果による収益体質の着実な回復を図ることが、まず鍵になります。これから、自動車部品及び精機事業の分社化や人事・賃金制度の改革、そしてTIMKEN社との合併による中国での工場立ち上げ等、当社を変えていく為の重要な改革が続いて参ります。

以上で2002年3月期の決算説明と、今期の見通しについての発表を終わらせていただきます。

THE END



添付資料：単独決算



28

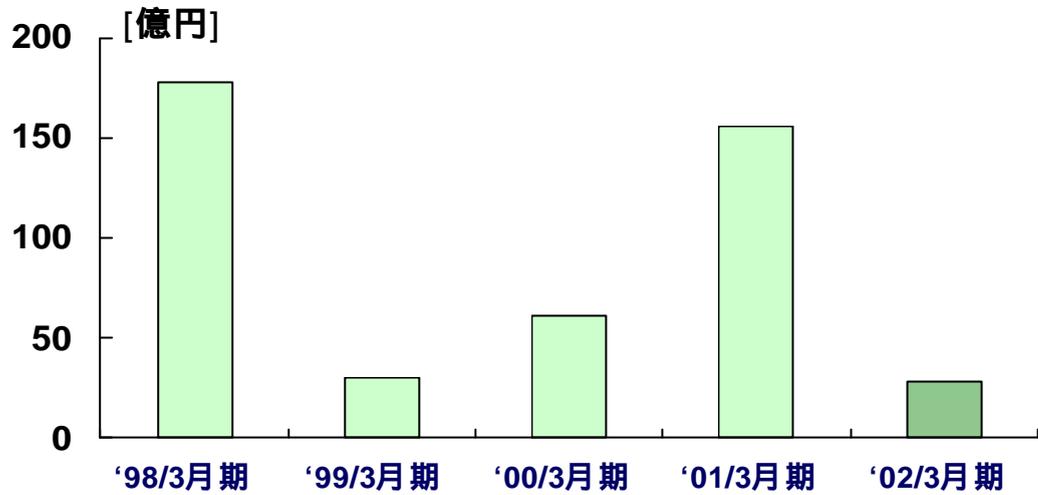
2002年3月期 業績 単独ベース



(億円)	'00/3月期 (1999年4月～2000年3月)	'01/3月期 (2000年4月～2001年3月)	'02/3月期 (2001年4月～2002年3月)	増減 (対'01/3月期)
売上高	3,524	3,570	3,047	-523
国内	2,541	2,496	2,125	-371
海外	983	1,074	922	-152
営業利益	61	156	28	-128
経常利益	32	158	20	-138
特別利益	203	242	102	-140
特別損失	178	231	170	-61
税引前利益	57	169	-48	-217
当期利益	27	109	-84	-193
(換算レ=1US\$=)	(¥110.82)	(¥110.52)	(¥124.99)	
(" 1STG£=)	(¥178.48)	(¥163.77)	(¥178.92)	
(" 1EURO=)	(¥115.43)	(¥101.13)	(¥110.05)	

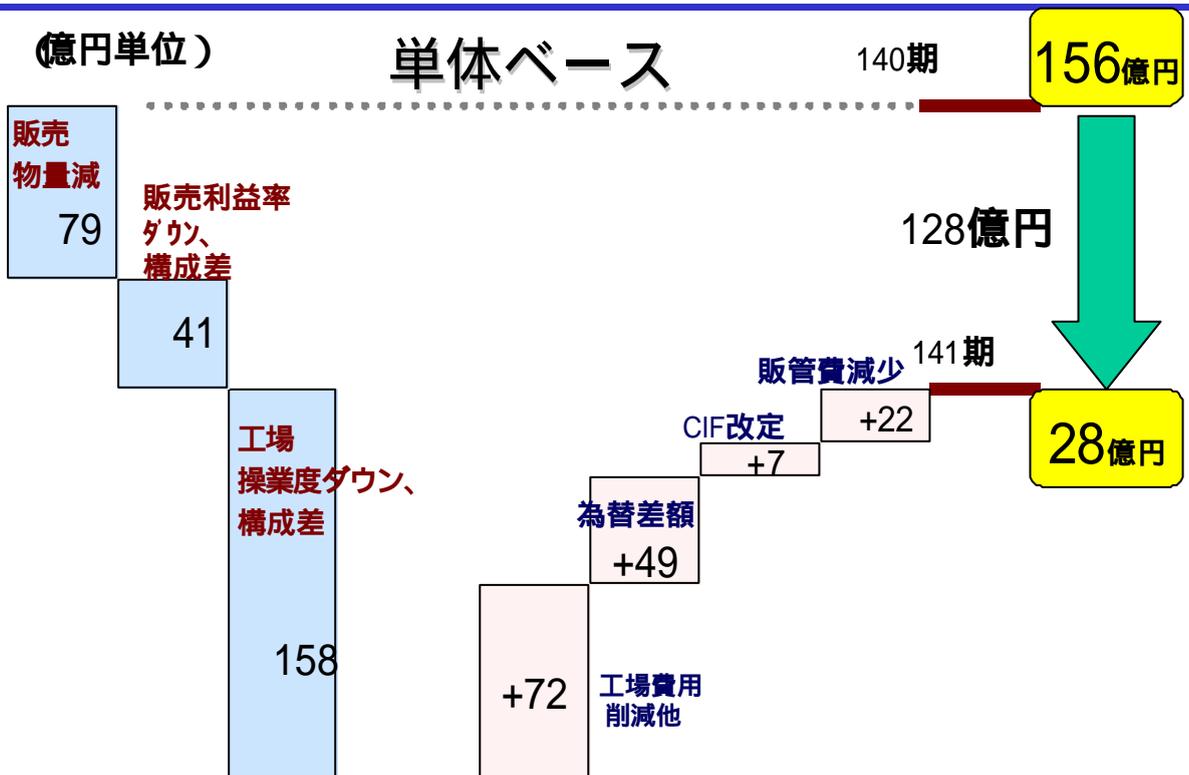
29

営業利益 単独ベース



営業利益 (億円)	178	30	61	156	28
営業利益率 (%)	5.0	0.9	1.7	4.4	0.9

営業利益 差額説明 ('02.3月期/'01.3月期)



貸借対照表 単独ベース



(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減
流動資産	3,001	2,243	1,998	-245
現金及び預金	26	13	50	+37
売掛債権	1,261	1,200	913	-287
有価証券	1,068	223	306	+83
棚卸資産	381	313	268	-45
その他の流動資産	265	494	461	-33
固定資産	2,424	3,646	3,512	-134
有形、無形固定資産	987	1,070	957	-113
投資有価証券	71	1,100	856	-244
子会社株式	1,223	1,409	1,644	+235
その他	143	67	55	-12
* <設備投資>	<116>	<225>	<139>	<-86>
資産合計	5,425	5,889	5,510	-379

32

貸借対照表 単独ベース



(億円)	'00/3月期	'01/3月期	'02/3月期	増減
流動負債	1,820	1,726	1,579	-147
買掛債務	890	905	815	-90
短期借入、社債	744	548	618	+70
その他の流動負債	186	273	146	-127
固定負債	1,364	1,580	1,534	-46
社債、長期借入等	1,116	1,316	1,396	+80
繰延税金負債		130	44	-86
退職給付引当金関係	244	129	88	-41
その他の固定負債	4	5	6	+1
負債合計	3,184	3,306	3,113	-193
* <有利子負債>	<1,860>	<1,864>	<2,014>	<+150>
資本、準備金、剰余金	2,241	2,319	2,159	-160
その他有価証券評価差額金		264	242	-22
自己株式			-4	-4
資本合計	2,241	2,583	2,397	-186
負債及び資本	5,425	5,889	5,510	-379

33

2003年3月期 計画 単独ベース



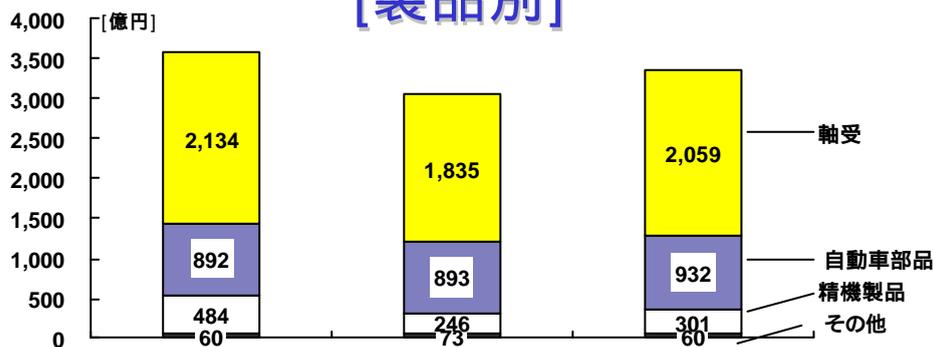
[億円]	'02/3月期 (2001年4月～2002年3月)			'03/3月期 (2002年4月～2003年3月)			増減
	<実績> 上期	<実績> 下期	<実績> 通期	<計画> 上期	<計画> 下期	<計画> 通期	
	売上高	1,555	1,492	3,047	1,600	1,750	
営業利益	19	9	28	40	80	120	+92
経常利益	10	10	20	25	55	80	+60
税引前利益	54	-102	-48	25	55	80	+128
当期利益	16	-100	-84	15	35	50	+134
(換算レート1US\$=)	(¥122.26)	(¥128.20)	(¥124.99)	(¥125.00)	(¥125.00)	(¥125.00)	
(" 1STG£ =)	(¥174.91)	(¥184.21)	(¥178.92)	(¥185.00)	(¥185.00)	(¥185.00)	
(" 1EURO=)	(¥107.73)	(¥113.57)	(¥110.05)	(¥112.00)	(¥112.00)	(¥112.00)	

34

売上高 計画 単独ベース



[製品別]



(億円)	'01/3月期 (2000年4月～2001年3月)	'02/3月期 (2001年4月～2002年3月)	'03/3月期 計画 (2002年4月～2003年3月)	対前期 増減率 (%)
軸受	2,134	1,835	2,059	+12.2%
自動車部品	892	893	932	+4.4%
精機製品	484	246	301	+22.4%
その他	60	73	60	-17.8%
合計	3,570	3,047	3,350	+9.9%
<内、輸出>	<1,074>	<922>	<982>	<60>
<率>	<30.1%>	<30.3%>	<29.3%>	

35